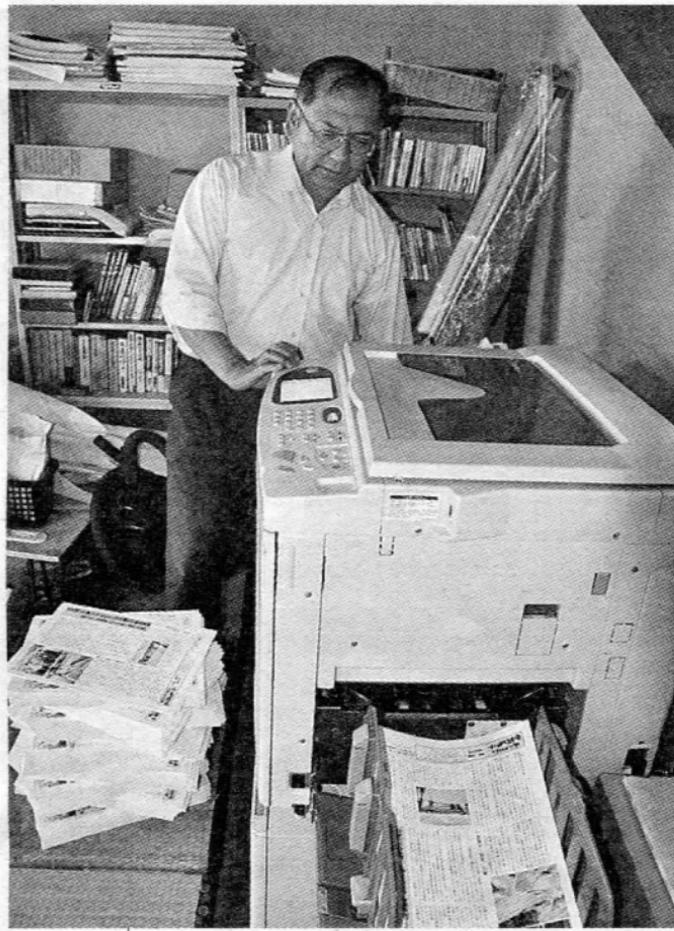


吉川区選出の橋爪法一市議が発行する「橋爪のりかずの市政レポート」が吉川町議時代以来の通しナンバーで千五百一号に達した。五月十五日付。第一号は昭和六十年六月二日付だった。地元吉川区には正月とゴールデンウィークの合併号をのぞく毎週発行。月に一度は浦川原、柿崎、大島、安塚各区への新聞折り込みとし、それぞれの地区に向け掲載記事を差し替える念の入れ方だ。表の面に市政や議員

「市政レポート」1500号突破

橋爪法一議 毎週木曜に執筆



活動の報告。裏面には身辺の日常を描く随想と市井の話題を配す。うち随想「春よ来い」は単行本に再編集

されるほどの人気。地域政治家としての意識と一線を画す酪農詩人の素顔を見せる。「千五百という節目

に特別な思いはない。毎週木曜に執筆するこどが体に染みついている」。実父が亡くなつた日も執筆予定日で、

焼香客が絶えた深夜に筆をとった。

「いつも材料を探す習慣なので、走っている電車の中からも珍しい花が目にとまる」
「面識のない人から読後の感想の電話があり、長時間、日ごろの思いを話してもらうこともある」。レポートは市議活動の一部だが、人々とのつながりを求め続ける橋爪さんの生き方そのものが、そこに結晶している。

自宅事務所の印刷機で広域版7千部を刷る